

宿泊税の活用状況について(令和5年度)

宿泊税について

福岡県では、福岡県全体の観光の魅力を高め、旅行者の皆様の満足度向上を図るため、宿泊税を導入しています。

令和5年度は、第二次福岡県観光振興指針の考え方に沿って、(1)受入環境の充実、(2)観光資源の魅力向上、(3)効果的な情報発信、(4)観光振興の体制強化、(5)市町村への財政的支援に宿泊税を活用させていただきましたので、ご報告いたします。

今後も、宿泊税の活用により観光産業を一層強化し、観光振興を図ることで、県全体、ひいては九州全体の観光活性化につなげてまいりますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。

令和5年度宿泊税の概要

○宿泊税込	1,733,054 千円
○宿泊税の賦課徴収に要した経費	112,388 千円
	(うち宿泊税充当額 91,173 千円)
○宿泊税を活用した事業費	1,563,552 千円
	(うち宿泊税充当額 1,536,926 千円)

※宿泊税込と充当額の差額は、翌年度以降に実施する事業(繰越事業含む)に活用(第二次福岡県観光振興指針の柱ごとの充当額)

指針の柱	事業費	うち宿泊税
1 受入環境の充実	115,693	115,555
2 観光資源の魅力向上	410,671	389,471
3 効果的な情報発信	613,328	608,040
4 観光振興の体制強化	423,860	423,860
(うち市町村への財政的支援)	(332,321)	(332,321)
合計	1,563,552	1,536,926

※各指針の柱ごとの主な実施内容については、次ページ以降に記載しています。

1 受入環境の充実

宿泊事業者の生産性向上を目的とした、専門アドバイザー派遣による個別経営支援、設備導入等に対する助成や、MaaS※を活用したデジタル乗車券と地域の特典が一体となった企画乗車券の開発、ユニバーサルツーリズムへの理解促進のためのセミナー開催などを実施しました。

※MaaS: Mobility as a Serviceの略。バス、鉄道、タクシー、AIオンデマンド交通などの複数の交通機関を最適に組み合わせ、検索、予約、決済を一括で行うサービスのこと。

○宿泊事業者の生産性向上支援



ベッドをダブル1台(主に1名利用)からシングル2台(2名利用)に変更、客室単価向上



客室内コンセントの増設による顧客満足度向上

○MaaSを活用した県内周遊促進



デジタル乗車券と地域の特典が一体となった企画乗車券を販売

○ユニバーサルツーリズムの推進



ユニバーサルツーリズム推進の意義などについて理解を深めるためのセミナーを開催



障がい者の駐車スペース等、具体的な対応についてアドバイザー派遣により助言

2 観光資源の魅力向上

県内各エリアの強みを活かした“尖った”観光テーマに基づく体験プログラムの造成や、福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた観光資源の磨き上げ、サイクルツーリズムの推進などを行いました。

○新たな観光地域づくりの推進



イカ王国筑前玄海イカフェア



英彦山神宮 朝のおつとめ体験

○福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた観光資源の磨き上げ



立花宗茂公と閻千代姫のゆかりの地を
巡る広域観光バスツアーの造成



森の文化(修験道・お遍路等)をテーマに、
体験コンテンツ(森林浴+α)を開発

○サイクルツーリズムの推進



台湾のサイクリスト向け旅行商品の造成



サイクリングツアーを安全かつスムーズに
引率できるガイドの育成

3 効果的な情報発信

福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた情報発信、「ふくおか平日おトク旅」観光キャンペーンの実施、現地商談会やWEB・SNS等を活用したインバウンド向けプロモーションなどを行いました。

○福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた情報発信



全国の旅行会社に福岡の観光素材をPRする「全国宣伝販売促進会議」の開催



福岡県 服部知事(中央)、大分県 佐藤知事(左)、JR九州 古宮社長(右)による共同記者発表会

○「ふくおか平日おトク旅」観光キャンペーンの実施



キャンペーン期間	令和5年12月1日(金)～令和6年2月16日(金) ※土曜日、年末年始(12/29-1/3)、祝日前日(1/7、2/11)を除く
助成内容	宿泊・旅行代金の20%(一人一泊あたり最大3,000円) ※日帰り旅行は助成対象外、地域クーポン券なし
助成対象	① 宿泊費 ② 宿泊を伴う旅行代金 ※平日のみ、政令市の宿泊施設を除く
助成方法	① 宿泊施設での直接割引 ② 旅行会社が販売する旅行商品の割引 ③ 宿泊予約サイト(OTA)での割引

○インバウンド向けプロモーション



海外での現地旅行会社との商談会

観光情報サイト「VISIT FUKUOKA」での情報発信

4 観光振興の体制強化

観光団体のDMO化に向けた専門人材の育成や、飲食店・宿泊施設等を対象とした、ハラール・ヴィーガン等の多様な食文化の普及啓発やメニュー開発支援を実施しました。また、市町村がそれぞれの地域の現状と課題を踏まえ、創意工夫を凝らした観光振興施策が実施できるよう、宿泊税交付金を交付しました。

○観光団体のDMO化の推進



DMOの中核となる人材を育成する「ふくおか観光地域づくり共創塾」の開講



DMO登録に向け、県内観光協会からの相談対応や専門家派遣を行うワンストップ支援窓口の設置

○飲食店・宿泊施設等を対象とした食の多様性に対応するための支援



食の多様性にかかるセミナーの開催



ヴィーガンに対応した豚骨風ラーメンの開発支援

○宿泊税交付金を活用した市町村の観光振興施策



新幹線車両基地を見渡せる公園の整備（春日市）



観光資源の「花」を活かした体験コンテンツの造成（直方市）